

ほめ言葉のシャワー

2025. 1. 29

12月19日のことである。初めてサンタクロースになった。当日の朝には、何人かの保護者から、「今日は、サンタクロースになるんですね。がんばってください」と励ましの言葉をいただいた。この「園長通信」の読者の方々である。翌朝には、また何人かの保護者の方に、「昨日はどうでしたか」と聞いていただいた。こう答えた。「それが、バッチリだったんです」自分としては、珍しくうまくいったと思っている。長年に及ぶ教員人生の中でも、ベスト3に入るくらいうまくいった。

12月20日は、我が幼稚園のお楽しみ会だった。サンタクロースがやってくる日である。前日にはサンタさんになったばかりだったため、自分が務めたサンタさんと比べることができた。さすがに自前のサンタ衣装をもっているだけあって違っていた。まず、衣装がハイグレードだった。子どもたちとのやりとりが実に教育的だった。前日に、元気よく勢いだけでやっていた私とは違っていた。サンタとしてのキャリアを感じることもできた。

このとき、ふと考えたことがあった。それは“ほめ言葉のシャワー”である。幼稚園の子どもたちは、ずっとほめ言葉のシャワーを浴びている。毎日、いつもほめられている。園での生活の中では、注意しなければならないこと、教えなければならないこともある。そういったときでも、決して否定的な言葉を使わない。肯定的に考えさせるよう働きかけている。ほめ言葉のシャワーを浴び続けていると、自己肯定感が低下することはないだろう。そのためだろうか、子どもたちの笑顔がどんどんよくなっていく。素敵な笑顔である。毎日、ブログ用の写真を撮っているため、その変化がよくわかる。

気づいたことがある。それは、子どもたちがほめ言葉のシャワーを浴びていると、それを聞いている自分まで、その影響を受けるようになっていくということである。目の前で、子どもたちをほめる言葉を聞いていると、少なからず影響されるのであろう。洗脳ではない。感化とさえいいだろうか。

幼稚園に来てくれたハイグレードな高貴さを備えたサンタさんには、子どもたちを包み込むような優しさがあった。私の初サンタが思いの外、うまくいったのは、ほめ言葉のシャワーをそばで聞くことができていたからだだろう。今年度も、あと二か月ほどとなった。子どもたちの笑顔には、ますます磨きがかかっている。笹谷幼稚園は、“笑顔かがやく子ども”を育てようとしている。そのためにも、ほめ言葉のシャワーがよい。